



2016年のゼミ活動 アンケート結果

ゼミ生全員(4年2名、3年5名)が文章で回答。(数字)は人数。

Q. あなたが一番、楽しい思い出に残ったゼミ活動は？

A. 豊富【小中生】の教育支援活動(6)、グングン塾助手活動(1)

Q. あなたが一番、勉強になったことは？

A. 教たま数学教室(3)、文献研究「ブラックバイト」(1)、文献研究「教師が育つ条件」(1)、グングン塾助手活動(1)、学習支援活動(1)

Q. あなたが「成長したなあ」と思えることは？

A. 対応力(4)、自己反省(1)、教たま数学教室(1)、豊富遠征(1)

Q. あなたが「成長していないなあ」と思うことは？

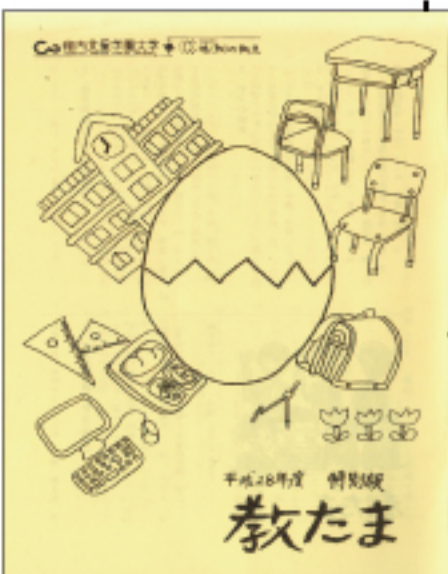
A. 対応力(2)、発表や交流(2)、文献研究(2)、準備不足(1)

Q. 続けていきたい活動は？

A. 地域教育支援活動(6)、責任のある仕事(1)

Q. 良いゼミにするために改善が必要なことは？

A. 協力関係(2)、2年生の自主参加(1)、出席(1)、特にない(1)、強制しない(1)



これ一冊で、教たまゼミの活動がわかる「平成28年度教たま特別版」12月15日発刊。初めて4年生の数学授業の指導案と授業後の自己評価を掲載。卒業時点の研究発表を掲載する機会に。年明けから図書館で配布。お世話になった教育・自治体関係者にも配布予定。



夜寝先生の ありがたいお話

本学初のCOC全国シンポジウム実行委員長の大役をいただき、9月までの役割を何とか果たした。身に余る役割をどうにかこなす中で改めて大事だと痛感したのは、周りの人たちにお願ひすること、頼ること、という基本的な事だった。

大学教員は基本的に個業である。全学体制で行う全国シンポも、私は危うく個業にしかねない状況だった。大役に身構える程に動きが硬く鈍くなった。それを打開してくれたのは周りの人たちで、同時に仕事を担って下さった。

人に頼るのに抵抗があるのは確かだ。ある授業で学生が指導案を参考にすることを「パクリ」と表現した気持ちも実は少しわかる。個の努力が求められる世相も感じる。しかし、できる人にお願ひし、得意な人に頼り、一人では不可能なことを成し遂げて感じたことは「喜び」だった。お願ひすることの罪悪感や、頼ることの不甲斐なさは意外なほど無かった。それが今回の大きな気付きだ。

改めて、ご参加下さった方々、助けて下さった方々にお礼を申し述べたい。



新年も

よろしくお願ひします。



■1月10日から3日間、豊富町「ウインターチャレンジ」(町教委主催)。夏冬あわせて4回目。泊まり込みで、課題作成や指導方法の検討、食事の作成、小中学生との交流など、ゼミ生に大好評の教育支援活動。「しおり係」、「課題係」、「食事係」、

会計は樋口さん(ゼミ長)。

■「教たま数学教室 入証直前対策」を1月17日から3回(火曜夜6時から)開催予定。中3の7名対象に後期教室は12月末に終了しましたが希望者多いため特別開催。飛び入りOKです。

■昨年卒業の4年生2名、1名は稚内大谷高教員として活躍中。大学院(教育大札幌)に進学したもう一人は、道の公立中学校教員採用試験に合格。今年の4年生は地方公務員と教員の道に。

■次号では、「教たま数学教室の1年」を予定しています。